



それぞれの思いを込めて四国中を旅する遍路。
それはいつも弘法大師・空海に見守られた
「同行二人」の旅である。
土佐清水市の四国最南端の地、足摺岬には
大師が建立した金剛福寺が立ち、
一年を通じて多くの遍路や参拝客が訪れる。

ASHIZURI-UWAKAI KOKURITSUKOEN TOSASHIMIZU HENRO

遍路

HENRO

空海

(774-835)

平安初期の僧で真言宗の創設者、弘法大師の諡号で知られている。大師は宝亀5年(774)に香川県普通寺で生まれ、31歳の時に唐に渡り密教を学ぶ。帰国後は高野山を開創し、真言宗の教えである「真言密教」を広めた。遍路とは、四国にある弘法大師にゆかりのある88ヶ所の寺を巡礼することをいう。



札所から札所までの距離が長い「修行の道場・土佐」。第37番札所岩本寺から第38番札所金剛福寺までの道のりは約90kmと四国八十八ヶ所の札所間距離で最長である。

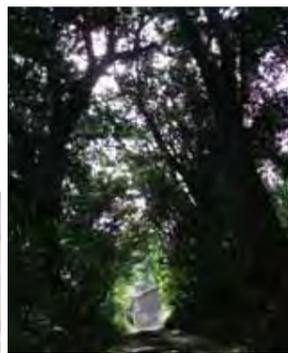


第38番札所 金剛福寺

うっそうと茂る亜熱帯樹林の樹海に立つ金剛福寺。第38番の札所に数えられ、四国最南端に位置するこの寺院は、南国情緒漂う仁王門をくぐると、正面に本堂があり、左手には真新しい大師堂がある。

遍路を体験したくなる あしずり遍路道

土佐清水市では、かつての遍路が利用していた古道を再整備させて復活。道沿いには以前から残る石でできた道しるべと、各起点間までの距離が表示された新しい道しるべが立てられ、歩き遍路が安心して旅を続けられるように工夫されている。



大岐下港山 ↔ 大岐浜道北口
和 田



祭り

MATSURI

一年に一度、無病息災を祈り、豊かな恵みに感謝してハレの日に祭りを行う。その日は、朝からどこか日常とは違う空気が漂っている。子どもから大人までそれぞれがそれぞれの時を迎える。さあ、祭りのはじまりだ。

ASHIZURI-UWAKAI KOKURITSUKOEN TOSASHIMIZU MATSURI



土佐清水市民祭 あしずりまつり

毎年8月に開催される土佐清水の夏の風物詩。あしずり踊りをはじめ、多彩なイベントが行われる。夜には屋台が賑わう中、迫力満点の花火大会が開催される。



勇壮な漁船のパレード 鹿島神社大祭

毎年2月と10月の第3日曜日の2回、航海安全や豊漁を祈って行われる祭り。色とりどりの大漁旗を掲げた漁船が、神輿の乗る輿舟を先頭に海上をパレードする。そのさっそうとした出漁風景に脈々と受け継がれた海の男たちの心意気を感じることができる。



土佐清水で 出会える 生き物たち

名所や観光施設を楽しむのもいいけれど、土佐清水を訪れたら周囲の自然や生き物たちにも目を移してほしい。そこには生き生きとした営みを見せる、ありのままの自然が見えるはず。



磯で巣を探してみよう インヒヨドリ

ヒヨドリより少し小さく、体長は23cmほど。磯の岩陰などに枯れた雑草などを集めて巣をつくる。ヒヨドリの名前がつくが、分類上はツグミ科の全く別の鳥。



竜宮の使いにであう ウミガメ

足摺七不思議のひとつ「亀呼び場」から眼下の海を眺めていると本当にウミガメが泳ぐ姿を目にすることがある。また、市内の海岸には時折ウミガメが産卵に訪れる。



崖地に咲く夏の花 ハマカンゾウ

海岸の崖地や急傾斜地に自生するユリ科の植物。ノカンゾウによく似ているが、葉が厚くて光沢があり、常緑なのが特徴。7月ごろから黄味をおびた橙色の花が咲く。



夏の海に咲く白花 ハマユウ

日当たりの良い海浜でよく見かける花。ヒガンバナ科の植物で、7~9月の間、白い花を咲かせるが、木綿(ゆう)のように白く垂れているのでこの名前がついた。



初冬の足摺岬を彩る花 アシズリノジギク

四国西南部に分布し、ノジククの変種として扱われることもある。足摺岬から叶崎にかけての海岸沿いで11月から12月にかけて多く見られる。



足摺の冬の風物詩 ツバキ

足摺岬のシンボルであり、遊歩道にたくさん自生し、冬から春にかけて花を咲かせるツバキ。古くから日本人に親しまれ、さまざまな園芸品種がつけられている。

春の訪れを告げる祭り 足摺椿まつり

土佐清水に早い春を告げるツバキが開花する1月中旬から2月末まで行われるまつり。足摺半島全体で約15万本、灯台周辺の椿のトンネルには約6万本の樹に花が咲き乱れ、春を彩る。期間中は観光開きや俳句大会など多彩な催しが繰り広げられる。